IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門（D部門）ニュースレター 2014年8月号 (<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/nl/>)

産業応用部門の国際委員会

Global Activity Committee on Industry Applications Society

電気学会 産業応用部門 国際委員会委員長

西田 保幸 (千葉工業大学)

Yasuyuki Nishida (Chiba Institute of Technology)

Chairperson of Global Activity Committee, Industry Applications Society, IEEJ

産業応用部門（D部門）の国際委員会は、2006年に当時の齋藤部門長が産業応用部門の国際化対応を促進すべくD部門国際化検討WGを設置され、部門英文論文誌の発行とサイテーションインデックスへの登録、および部門主催の国際会議の戦略的展開という方向性が打ち出された事を受けて2009年に設置された部門国際化委員会に端を発します。同委員会は、初代委員長・引原先生の下で活動の基礎を築きました（2010年1月のニュースレター参照）。2010年には委員長職を引き継いだ清水先生により下記の具体的な活動内容が策定されました（2012年1月のニュースレター参照）。

○国際会議管理委員会の設置

産業応用部門が関わってきた国際会議の主催権が電気学会本部から部門に移管され、本委員会で開催状況を掌握することになり、部門主催国際会議ごとに管理委員会を設置し、海外の学会等との共催や著作権等の重要事項に関する交渉についての支援や情報交換を通してより円滑に国際会議を開催し産業応用部門としての総合力を発揮できるようにする。

○部門国際活動資金の運用

電気学会の会計制度の変更に伴い、国際会議の開催剰余金（主として、次回開催のための準備金）は部門国際活動資金として部門が一括して管理することになった。同剰余金は、産業応用部門主催の各国際会議の円滑な開催準備や産業応用部門の国際化の取り組みに有効活用できるよう、その運用方策を検討しつつ運用を開始した。

○新技術分野や中小規模国際会合の開催支援

新技術分野を先導する国際会議や、技術交流に有益な中小規模の国際会合の開催支援の方策について検討を開始した。

2013年には私が委員長を拝命し、清水前委員長の取り組みを継承しつつ下記の活動を行っています。

○部門国際委員会活動の定着化

清水委員長体制で開始した前記3つの活動（国際会議管理委員会の設置、部門国際活動資金の運用、新技術分野や中

小規模国際会合の開催支援）について、部門内や国際的諸情勢を鑑みながら、必要な方策の改定・設置を行いつつ活動の定着化を図っています。本国際委員会が近年関わった部門主催国際会議（ICEMS-2012-Sapporo, IPEC-2014-Hiroshima）では、国際会議管理委員会制度と部門国際活動資金制度を活用しながら、D部門として一貫性のある方策を意識しつつ円滑な開催を支援しました。また、その経験を生かして本国際委員会のより効果的な支援体制を整えていく考えです。

○IEEE, EPE, およびアジア地域学協会との連携強化と各種国際会議類での電気学会産業応用部門のプレゼンス向上

D部門 SPC（技）と韓国 KIPE の共催として開始された日韓パワエレ Workshop をD部門主催（SPC（技）担当）としつつ本国際委員会の支援対象とし、同 Workshop の円滑な開催や KIPE との連携強化を図っています。また、別途 D部門 SPC（技）と IEEE PELS-Taipei の共催として開始された日台パワエレ Workshop を上記の日韓パワエレ Workshop と統合することが日本・韓国・台湾間で検討されており、その円滑な統合手段や統合後の開催形態に関する検討を支援しています。

一方、本国際委員会では国内外の諸学術団体からのD部門に対する共催等の依頼の受け付けや依頼内容（契約内容）の検討・審議も行っていますが、特に国際関係は複雑化してきており、海外学術団体との連携強化とD部門のプレゼンス向上（D部門の権利の確保）との両立が難しい場合も少なくなく、国際的センスに基づいた一貫性のある対応の確立も大きな課題となっており、本委員会委員各位や経験豊富なD部門役員等会員諸兄の援助を必要としています。

上記の通り、本国際委員会の今後の活動はD部門の国際化（国際的連携強化とD部門のプレゼンス向上）に必要な欠かせないものであります。今後とも産業応用部門の国際化施策について、会員諸兄のご意見を拝聴しながら鋭意推進して参りますので、ご理解とご支援を賜りたく、よろしくお願い致します。